日本語教育（小学校）部会

豊かな表現力の育成
～伝え合う力を高める指導の研究～

Ⅰ　研究テーマについて

伝え合う力を高める指導の研究について，数年間取り組んできている。昨年度の研究の成果と課題を受けて，今年度も「話すこと・聞くこと」の指導の工夫について取りあげた。「話す・聞く」活動に「書く」活動を取り入れ，伝え合う力を高める指導法を探っていきたいと考えた。

Ⅱ　研究の内容

1　「伝え合う力」についての学習会

講師　県義務教育課　保坂　伸先生

・音声で伝え合う学習の具体的な指導法と評価のしかた。
・言語環境を整えることの必要性。
・新学習指導要領の趣旨(思考力・判断力・表現力の育成）について。

2　授業研究

□『変身インタビュー』　　塩山北小学校　３年生担任　岩森真由美教諭

［目指す言語能力］メモを活用しながら，相手や目的に応じてインタビューする力

子ども達同士でインタビューし合い，インタビューして分かったことや感想などをミニ新聞にまとめるという学習活動である。指導のポイントとして次のことが上げられる。

①題材選び…子ども達は「好きなもの博士」に変身する。「好きなもの」は，“得意なこと”“実際に経験したこと”などから選んだ。得意なことであるので自信をもって話すことができた。また，ミニ新聞を作るという目的意識をはっきりさせて児童の意欲喚起につなげた。題材選びが功を奏し，インタビュー活動は活発に行われた。

②インタビューのしかたについて学習…オリンピックのインタビュー場面を見たり，ＣＤを聞くなどして，質問のしかた・メモの取り方・話し方などを練習した。

③１枚ポートフォリオの活用…音声言語は形として残らないことから，学習履歴で自分の変容を確認した。伝えるために書くことで，考えを深めることができた。

□『何に見えるかな』　　菱山小学校　２年生担任　前田　文教諭

［目指す言語能力］「何に見える」「なぜ，そう見える」という話題に沿って話し合う力

ちぎった色紙の形が何に見えるかを伝え合う学習活動である。指導のポイントとして次のことが上げられる。

①本時までの指導…１年生から継続して指導してきた「話す」「聞く」の力の積み重ねの上に行う単元であるので，これまでの指導が生きて働くように，日頃から一人ひとりの関わりを大切にした。

②題材選び…ちぎる形はシンプルな物より多少複雑な形の方が児童の実態に即していると考え，2つ折りで左右対称になる形をちぎらせて用いた。話が盛り上がる要素となった。
③ふり返りカードの活用…思ったことを書き込むことで自分の活動をふり返らせた。

3　実践発表

・『伝え合って考えよう～松小縁日について～』

松里小学校　5年生担任　嶌本弥生教諭

目指す言語能力…話し手の意図を考えながら聞き，考えたことを自分の立場や意図をはっきりさせて話し合う力

「松小縁日で，お年寄りや小さな子ども達との交流を深めるためにどのような取り組みを行ったらよいか」という提案を受けて，話し合い活動を行った。

①話し合う内容の選択…身近で実現可能な内容であったので，自分のこととして具体的に考えることができた。
②話す・聞くスキルの学習…話し合いを円滑に進めるための資料を用意
③小グループの活用…全員が自分の意見を言うことができた。
④ワークシートの活用…個人の思考が深まるように細かいステップでワークシートを作成。話し合いの途中でも考えが整理できるように書き込みをしてもよいこととした。思考の深まりや広がりが見られ，「書くこと」が「伝え合うこと」に有効であることが実感できた。

Ⅱ　成果と課題

・音声で表現する際に，書かれた文字が有効に働くことが立証できた。
・児童の話したいという意欲を引き出すために，教材が大切であることが確認できた。

「伝え合う力」を高めるために必要な要素として

・子どもの実態をよく見極める。(意図的に子どもを見る)
・適切な教材・課題を選ぶ。
・目の前の子どもにつけたい力をはっきりさせ，そのための活動方法を工夫する。
・「書くこと」での整理。(自分の考えをまとめる。授業のふり返り。)
・日常生活にコミュニケーション能力を高めるための活動を取り入れる。
・子どもに自己肯定感をもたせるなど，日頃の教師と子ども，子ども同士の関わり方が大切。

などが共通確認された。

次年度にむけては，

・継続して「話す・聞く」にふさわしい教材を発掘していく。
・伝え合う力を高めるために有効に働く　書く場・書く内容・書いたものの活用のさせ方，等の研究。

について深めていきたいという意見が出された。

(部長　掛本　めぐみ)